

## 5 . 水利用の現状

### 5 - 1 水利用の変遷

石狩川水系における河川水の水利用は、発電用水、工業用水、かんがい用水、上水道用水など、多岐にわたっている。

河川水を利用した水力発電は古くから開発され、明治 42 年に豊平川上流に定山溪発電所が建設されたのに始まり、その後も千歳川、忠別川等をはじめ、石狩川の本支川で水力発電所の建設が進められた。近年では、豊平川の定山溪ダム、空知川の滝里ダムの建設等による水力発電の開発があげられる。

かんがい用水は、開拓農民による利用にはじまり、明治 43 年からの第 1 期拓殖計画時代、昭和 2 年からの第 2 期拓殖計画時代、戦後、昭和 27 年からの総合開発計画時代を経て、治水工事の進展とともに耕地は拡大を続け、現在では約 24 万 ha の田畑を形成するに至り、現在は年最大約 859m<sup>3</sup>/s におよぶ河川水がかんがいに利用されている。かんがい用水の増大に対して、桂沢ダム等の多目的ダムや大夕張ダム等の利水ダム等の貯水池の整備による水の確保が進められてきた。

また、河川水は、工業用水として製紙工場等に供給されているほか、札幌市をはじめとする流域市町村の大半が、上水道用水の水源として河川水を利用している。

表 5 - 1 石狩川水系水利用現況（法定河川内の許可水利）

名称	最大取水量 (m <sup>3</sup> /s)	件数
発電	1119.1	41
かんがい	858.6	1427
工業	28.4	17
上水道	19.3	50
雑用水	7.1	46
計	2032.5	1581

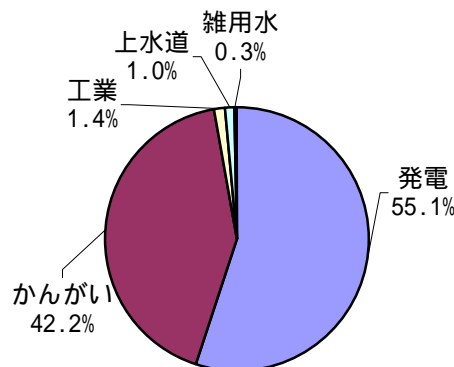
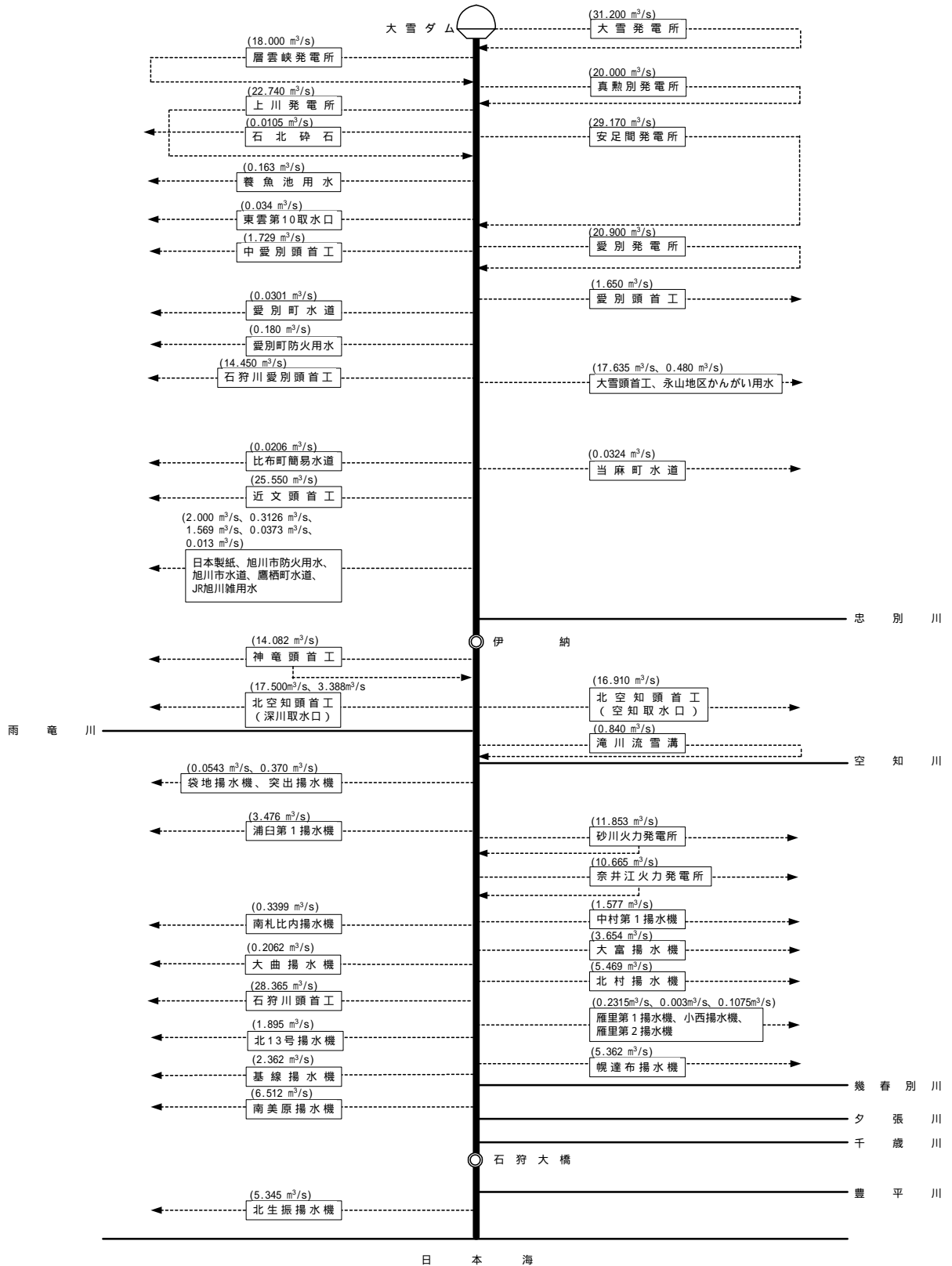


図 5 - 1 水利用割合図



注) 各水利権に添記した数値  
かんがい用水: (最大取水量)  
水道用水ほか: (取水量)  
発電用水 : (最大使用水量)

石狩川水利権模式図

図 5 - 2 石狩川水利権模式図

